

研究だより



香川大学教育学部附属 坂出小学校

< 目 次 >

◇あいさつ	1	・研究会の成果と今後の研究の方向	
◇第87回教育研究発表会	2～6	◇文部科学省研究開発学校としての取り組み	6
・研究発表会の概要		◇評価における取り組み, MTP	7
・各教科における取り組みと公開授業		◇「成功する少人数指導」発刊のお知らせ	8

大学改革の中での附属学校

校長 高井 忠 昌

香川大学は、今年10月に香川医科大学と統合します。統合後は、教育学部、法学部、経済学部、工学部、農学部、医学部の6学部をもつ総合大学として、今後のさらなる発展が期待されます。また、来年4月から国立大学は、独立行政法人化されます。法人化された後の具体的な大学の姿については、まだまだ未定のところがありますが、大学が法人化されることにより、今まで以上に個性や特色を発揮し、前進していくことを期待します。



このような今までにない大学改革の中、附属学校もその使命、役割を明確にし教育実践に取り組まなければなりません。国立学校設置法施行規則に附属学校の目的として、「大学・学部の教育に関する研究に協力し、大学・学部の計画に従い学生の実習の実施に当たる」とあります。今までも本校は、県・市教育委員会・公立学校や大学・学部との連携、協力を行いながら、特色ある教育研究や教育実習に取り組んできましたが、今後も自己評価や外部評価を行いながら、よりよい改善を図っていきたいと思います。

この「研究だより」も発刊2年目を迎えました。本校の教育研究に対しご理解をいただきますとともに、今後とも、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

今年度の新たな取り組み

副校長 西 浦 雅 弘

5月29日・30日の本校第87回教育研究発表会では、県内外から多数の参会者をお迎えし、盛会に終えることができました。心から厚くお礼を申し上げます。『21世紀を切り拓く「確かな学力」の向上』を研究主題に、各教科における「思考力」の育成とその評価、効果的な少人数指導の在り方など、本校の取り組みを発表することができました。これらの中で、各校でご参考になることが多少なりともあることを願っております。いただきましたご意見やご助言を、今後の研究に役立てていこうと思います。



今年度から、附属幼稚園、附属坂出小学校、附属坂出中学校、附属養護学校の附属坂出学園は、前回の文部科学省の研究開発の指定に引き続き「幼・小・中の接続の在り方並びに、幼・小・中一貫した教育課程、指導方法及び評価方法についての研究開発」の指定を受けました。この研究成果につきましても、順次、公開していきたいと思っています。

一方、教育実習においては「特別教育実習」として、大学4年生の希望者が、坂出市内の公立学校で2週間の教育実習を行うようになりました。この教育実習によって、大学3年生の附属学校での教育実習とも関連させ、より教育実践力を身に付ける教員養成が実施できることを期待します。坂出市教育委員会をはじめ、教育実習を引き受けていただいた公立学校に対し、深く感謝を申し上げる次第です。

研究発表会の概要

研究主題

21世紀を切り拓く「確かな学力」の向上 —「基礎・基本」の保障と「豊かな学力」の伸長—

研究内容

各教科における「思考力」の育成とその評価の在り方

「国語科」「算数科」「理科」における効果的な少人数指導

新教科「英語科」の開発と実践

経験を統合し生き方を創造する未来学習（総合的な学習）

公開授業、提案授業、研究協議会の様子

研究会の両日とも、午前中の各教科の公開授業並びに提案授業に対して、多くの先生方にご参会いただきました。そして、後の研究協議会では、本校の研究や各教科の取り組みに対しての貴重なご意見やご示唆をいただき、今後の研究の課題を明らかにすることができました。

また、第1日目の午後に行った「国語科」「算数科」「理科」における少人数指導の公開授業には、特に多くの先生方のご参観をいただき、少人数指導に対する関心やニーズの高さを改めて感じる事ができました。

さらに、第2日目の5年生社会科の全体授業『自給100%はさぬきの夢?』では、本校が特に大切にしている「思考力」の育成と評価について、目標設定の在り方や目標達成に向けた教師の支援、そして学習状況を把握する手立てなどを、具体的な授業を通して提案することができました。



ご講演の主な内容

【第1日目】

「『確かな学力』はどのように育つのか」

東京大学大学院教育学研究科
教授 市川 伸一 先生



- わたしと教育のかかわり
- 学力低下論争とわたしの考え
- 学力はどう育つのか
- 学習の2サイクル理論
 - ・ 習得サイクル型学習と探究サイクル型学習
 - ・ 2つのサイクルのバランスとリンク
 - ・ 学習は授業の中では完結しない
- 認知カウンセリング

等

【第2日目】

「確かな学力の形成と新しい教育評価」

大阪市立大学大学院文学研究科
助教授 木原 俊行 先生



- 21世紀の学力観
- 学び方の構造モデル
- 学び方の基礎確立のための習慣化
- 情報活用の実践力を育成するために
- 思考力の育成（坂出附小の取り組みの意義）
- 少人数指導の実現
- 発展学習で目指すもの
- 目標に準拠した評価の手続きと観点の整合性

等

各教科における取り組みと公開授業

国 語 科



かなざきともこ
金崎 知子



もりやまけいそう
森山 敬三

本年度の重点：言語とそれが指し示す意味，言語と言語の関係，言語とその使用者等について，既成の秩序の中で論理的に吟味する力（論理的思考力）

第4学年「紹介しよう助け合う生き物たち ー『ヤドカリとイソギンチャク』ー」（少人数指導）

「はっきり・コース」は、「問い」の段落と「答え」の段落が明確に構成されている教材文から，問いの段落を構成することのよさを学び，自分の紹介文に取り入れていきました。また，「チャレンジ・コース」は，「読者の疑問に答える段落」のある場合とない場合の違いを考えることによって，筆者の意図を探るとともに，自分の紹介文にそのよさを生かしていきました。



第2学年「生き物となかよしー『たんぽぽ』他ー」

教材文『たんぽぽ』と『たんぽぽのちえ』を比べ読みする中で学んだ「伝えたいことに関係あることを書く」という思考様式を，自分の「しょくぶつずかん」に当てはめていきました。



第4学年「紹介しよう 助け合う生き物たち」

話題提示の段落としての「はじめ」の段落の果たす役割について考える中で，文と文，段落と段落との関係を考えながら文章を書くことの大切さを学びました。また，どのように表現すれば分かりやすく，読み手を引き付ける表現になるかを考え，工夫していきました。

社 会 科



ごうだまさき
合田 雅気



さなきひとし
佐柳 仁

経験として「よく知っていること」を「置き換え（比喩）」の枠組みや「対比」の対象として用いながら，社会的事象を「自分なりのことば」で捉える力

第4学年「ごみとわたしたちの暮らし」

「どちらのごみ袋を使うか。」名前を書く欄のあるごみ袋とないごみ袋を比較し，その良し悪しをごみに対する自分の価値観を投影させながら子どもたちは話し合いました。そこでの結論。「名前を書く書かないよりも一人一人のごみ分別の意識を高くもつことが大切なんだなあ。」「じゃあ，あなたはできてるの？」「う～ん・・・。これからしっかりやっっていこう！」・・・。「ごみ問題」に対して4西の提案を考えていきました。

第5学年「自給100％はさぬきの夢？」

「県内で生産に携わる人だけでなく，豪州の人達の立場も考えないと，うどんは食べ続けられないのだな。貿易って難しいな。」

さぬきの夢2000の開発・生産に取り組んだ人達の苦労を遠く離れた豪州の人達にあてはめることで，国内・海外の双方の視点から考える大切さを学んでいきました。



算 数 科



みやけひさのり
三宅 永哲



もりたひろふみ
森田 浩文

- 事象のしくみやその表現・処理の方法を構造的・形式的に捉える力
- 経験に照らしながら問題とその便利な解き方を見出そうとする力

第3学年「わけるといくつになるのかな」（少人数指導）

何人に分けられるのかな・・・。「パワーアップ・コース」では，1人分を求めるときのブロック操作を振り返ったり，3個ずつ分ける操作をしたりしながら，「いくつ分」を求めるわり算を学習しました。「チャレンジ・コース」では，ブロック操作で答えを確かめた後，ブロックを使わないで答えを求め，あまりが生じる場合についても考えていきました。



第3学年「わけるといくつになるのかな」

第1日目に引き続き、「ひとつ分はいくらかな」「いくつ分に分けられるかな」という2つの分け方のちがいをみかんを分ける操作をして振り返りました。どちらも同じわり算の式に表せることを確認しました。さらに、「もとの数」を問う問題を含んだ様々な分ける場面を3つの量に着目して分類したり解いたりすることを通して、かけ算とわり算との相互関係を探っていました。

理 科



おさふねじゅんじ
長船 准児



とうじょうなおき
東条 直樹



よこかわかつまさ
横川 勝正

複数の事象を客観性のある視点をもって比較したり、要因の変化に伴う事象の変化を予想してその関係を確認したり、要因が複数ある場合は要因を制御した実験を行って確かめたり、複数の方法で追究しその結果を関係付けて考察・処理したりしながら、特性を捉える力

第5学年「見つけよう 植物の発芽と成長に必要な条件」(少人数指導)

植物の発芽に必要な条件(水・空気・温度)について、多様な種子で確かめようとする「じっくり・コース」と、土や肥料など別の条件についても調べる「チャレンジ・コース」に分かれ、条件を制御する思考の 定着と広がりを求めています。



第3学年「くらべよう

植物のからだ」

育ててきたホウセンカやフウセンカズラとその他の植物を比較することで、「葉・くき・根がある」という共通点やそれぞれの植物のもつ差異点(特徴)を捉えています。

第5学年「見つけよう 植物の 発芽と成長に必要な条件」

植物の成長に必要な条件について、子どもたちが考えた実験方法を相互評価することを通して、変える条件と同じにする条件を吟味する力を高めています。

第6学年「燃え続けて！

わたしのランプ」

びんの中のろうそくの火が消えてしまう理由を、びんに酸素や窒素を集めて実験したり、気体検知管で変化を調べたりするなど、様々な方法で探っています。

生 活 科



まなべよしき
真鍋 佳樹

- これまでの経験と結び付けながら、事物・事象へのかかわり方についての価値や課題を捉える力
- これまでの経験で得た情報と新しく得た情報とを結び付けながら、今後の自分の在り方を工夫する力



第1学年「ともだち いっぱい！ やるき いっぱい！」

自作ペットボトルじょうろづくりや、休みの日の水やりの方法について、試行錯誤しながら工夫していました。「水を運ぶ・シャワーのように水を出す・空気穴をあける」といったじょうろづくりの工夫、「ペットボトルを積み重ねていく・ペットボトルを土にさす」などの休みに備えての工夫がいっぱいとびだしました。

音 楽 科



く め あ や
久米 亜弥

- 楽曲や音のもたらす気分や内容から、表す情景を想像したり、特徴付けている要素を感じ取ったりする力
- 感じ取ったことを基にして自ら創意工夫し、より豊かな音楽活動の方法を求めているとする力



第2学年「リズムにのって わくわくアンサンブル」

ものの名前がもつリズムをテーマをもとに選択し、「ざるうどん」や「ラッパスイセン」など楽しいことばを4拍に当てはめる表現の工夫をしました。さらにグループでリズムリレーをしたり、みんなで重ねてアンサンブルにしたりすることを通して、アンサンブルの終わり方について、グループで考えていきました。

図 工 科



みやわきみつこ
宮脇 美津子

- 感じたことを基に多様な観点でイメージを深めたりアイデアを広げたりする力
- 主題を決め、美しさや用途を考えながら活動の見通しをもつ力



第3学年「ゆめのしろへ ようこそ！」

〇〇に建っている、〇〇が住む城。つくりたい城のイメージを広げながら箱を組み合わせて紙を加工したりして城づくりに取り組みました。「三角の筒を組み合わせて城を高くしよう。」「忍者の住む城だから紙を折り曲げて仕掛けをつくろう」とそれぞれが自分の城に合った工夫を考えながら表現していききました。

家 庭 科



はまごきよしよ
濱崎 良重

- 生活事象を様々な観点から多面的に見直し、総合的に捉える力
- 自分の生活とのかかわりで生活事象を考え、応用・転移していく力



第6学年「まかせて！私は夏の衣服選びの達人」

「着心地のよい布地選び・・・綿100%はよいと言えるのか」という学習問題を解決していくために、ポリエステル100%と比較しながら、各々の特徴を不感蒸泄^{ふかんじょうせつ}の実験等五感を通した活動によって見出しました。そして、その総合的に捉える力を生活に応用・転移するために、夏の標準服布地（ポリ65%綿35%）を見直したり、スポーツをする場合や肌寒い日等様々な場面の着方を考えたりしていききました。

体 育 科



まつうらまさひろ
松浦 正裕



にしもとさわこ
西本 佐和子



なかむらみちこ
中村 美智子

- めざす動きや生活と自己の現実を照らし合わせながらイメージをもったり、課題を設定したりする力
- 課題解決に向けての手だてを選んだり、見出したりする力

第6学年「1・2・3 ハイ ジャンプ」

「どうすればもっと高く跳べるだろう。」走り高跳びで、試行錯誤を繰り返しながら自分に合った跳び方を求めていききました。「助走はリズムカルに」「最後の3歩はタタタと小走りで」「踏み切りの瞬間に勢いが付くように」走るなど、助走だけでもたくさんの発見がありました。自分の動きを客観的に捉えるために、友達との学び合いの仕方についても学びました。

第2学年「生き物となかよし

ー『たんぽぽに变身しよう』ー

綿毛になってお話づくりをしたり、友達とつながって長い根に变身したりすることを通して、友達と一緒に動くための工夫の仕方を見つけていききました。



第4学年「見ていてね 成長するわたしを パートⅠ」

「10年後も健康で、〇〇な人になっていたいな。」

自分の生活を振り返り、その問題点を見つけ、どうしたらよいかを考えていきました。そして、友達や家の人にその生活を実行することを宣言しました。



未来学習（総合的学習）

第6学年「未来予測ーライフスタイルはこう変わるー」

パネルディスカッションを通して、未来の私たちの生活について様々な面から意見を述べ合い、考えを深めていきました。



英 語

ALT: Nettie Boivin JTE: 香川由利子 ^{かがわゆりこ}



第1学年「body -touch me-」

ALTと担任がチームとなり歌や紙芝居、タッチゲームを通して体の各部位を覚えていきました。

第5学年「weather」

天気や気温に合う服を選ぶ中でJTEと楽しく活動しました。



研究会の成果と今後の研究の方向

研究会の成果

「思考力」の育成に向けて「思考の質」の視点から単元レベル、学習指導レベルの工夫に取り組む中で教科に共通する単元内・単元間の工夫が明らかになってくるとともに、各教科ごとに効果的な支援や評価方法も構築されてきています。

また、少人数指導に取り組む中で、子どもの状況に応じた集団編成や目標の設定の仕方、学習空間の工夫や教師のきめ細かな支援など、「思考力」の伸長にも寄与する方法を見出すことができました。

今後の研究の方向

今後の課題としては、各教科における「思考力の質」の具体化をさらに進め、教科の枠を超えた共通的な支援を構築していきたいと考えます。また、「思考力」を育成するにあたっては、「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」といった他の観点とのかかわりを明らかにしていく予定です。

さらに、「発展学習」についての各教科での考え方の確立や「思考力」を育成する重点単元とその系統性についても、研究していきたいと考えております。

● ● ● 文部科学省研究開発学校としての取り組み ● ● ●

本校は、附属坂出中学校、幼稚園、養護学校とともに、平成15年度から3年間、文部科学省研究開発学校としての指定を受け、以下の課題で研究に取り組んでいます。

園児・児童・生徒の生活や学びの状況に適応した教育課程を創造するため、新しい教育制度「5・4制」を実施した場合の幼稚園と小学校及び小学校と中学校の接続の在り方並びに、幼・小・中一貫した教育課程、指導方法及び評価方法について

平成15年度6月の取り組み

① 小学校6年生の中学校教育に対する適応に関する調査（小・中部会）



6年西組39名の子どもたちは、担任とともに、6月9日から3週間、附属坂出中学校に通学し、中学校という環境の中で、中学校教員の指導による学習を体験してきました。この体験入学の結果については、学園小・中部会が分析・考察を進めているところです。

また、10月には、6年東組の子どもたちが、同期間、中学校での学びを体験する予定です。

② 5歳児及び小学校1、2年生の集団を基盤とした生活システム・指導システム・指導方法に対する適応に関する調査（幼・小部会、特別支援部会）

6月9日から1週間、附属幼稚園年長の子どもたち34名は、小学校という環境の中で、集団を基盤とした学び「くらしⅡ」の体験をしました。ここでは、小学校教員と、年長担任とのTTにより、言葉や数の遊び、造形や音楽、身体表現といった遊びや小学校1年生との交流などの活動が展開されました。この結果の分析・考察を基に、2学期には2回目の実践を行う予定です。



今後の取り組み

- ③ 各教科・領域等における指導内容や、育成したい資質・能力が一貫するカリキュラムの作成
- ④ 幼少期における特別な支援を要する子どもに対応したカリキュラムの開発・指導法の工夫

ゴール

将来の望ましい教育課程の在り方について本学園としての提言を行う

● ● ● 評価における取り組み ● ● ●

各教科・各観点における学習状況の判断基準（平成15年度3学期案）作成

第6学年 平成15年度3学期 各教科・各観点における学習状況の判断基準			
	関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと
国語 *「未来」についての討論会をしよう	○未来について予測しようとする。 B：一つの分野について、根拠を基に未来予測をすることができる。 A：複数の分野にわたって、根拠を基に未来予測をすることができる。 【発言の内容・ワークシート】 ○パネル討議に参加しようとする。 B：パネラーとして、根拠を基に予測した未来について話したり、質問に答えたりできる。 A：Bに加え、司会者をしたり、フロアーから意見を述べたりできる。 【パネル討議の様子】	○未来についての討論会で、パネラーとして論理的な述べ方ができる。 B：予測と根拠が整合した未来予測を述べることができる。 A：Bに加え、反論を予め予測した未来予測を述べたり、質問に対しても適切に回答をしたりできる。 【パネル討議の内容・ワークシート】	
*作家と作品をかかわらせて	○宮沢賢治の伝記を基に、作者の考え方・生き方を讀もうとする。 B：宮沢賢治の生涯と、第5学年で学習した『注文の多い料理店』の作品に込められた思いを関係付けて考えることができる。 A：本文中に出ている9作品のうちのいずれかを讀み、宮沢賢治の生涯と、作品に込められた思いを関係付けて考えることができる。 【読書の様子・発言の内容】		○選んだ作家の生き方について調べた事実を挙げてまとめることができる。 B：作品のあらすじの中に、その作家の生き方や考え方が分かることを含み込んで、感想をまとめることができる。 A：作家の生き方や考え方が強く表れている部分を引用したり、まとめたりしながら、複数の作品を関連付けて、感想をまとめることができる。 【ワークシート『感想文』】

私たちは昨年度からA基準（十分に満足）、B基準（おおむね満足）の双方を盛り込んだ学習状況の判断基準を作成し、評価にあたってきました。しかし、子どもの課題意識に寄り添って学習活動を変更したり、内容を再吟味したりするため、学習を進める過程で判断基準が変わることもありました。

そこで、私たちは学期末に判断基準を再吟味し、修正を加えていくことにしました。

● ● ● MTP（マスター・ティーチャー・プログラム） ● ● ●

MTPは、BUGS&SOIL（虫と土壌）とよばれる日米共通の環境調査プログラムを核として、児童相互の交流・理解を促進したり、教員の見識を深めたりすることをねらいとしたものです。本校は今年で4回目となり、児童にもすっかり定着してきました。外国から来た教員ともごく自然な形で交流が進められています。

今回来日しているのはアメリカ・ミシガン州、アーマン小学校の Bruce Douglas Ricketts先生。教育学が専門で、アメリカでは中学年を主に指導されているそうです。本校では、英語をはじめいろいろな授業に参加したり、各教室で共に給食を食べたりして交流を深めています。たいへん優しく、また気軽に声をかけてくれるので児童からも親しまれています。



今回はRicketts先生と同様に、附属坂出中学校に Rick Vander Veer先生、飯山高校に Nancy Kay Smith先生が来日しています。

春と夏に日本側のBUGS&SOIL調査を行いました。校内外の4カ所を土壌別に分けて生息する虫を調べ、興味深い結果が得られています。

アリ、チョウ、ダンゴムシ、バッタ・・・おなじみの虫たちですが、その生息状況は土壌により大きく異なっていました。虫たちは自分が棲みやすい場所をよく知っているようです。時候による種類や数の変動も顕著で、普段見落としがちな風景の中に生命の営みがしっかりと続けられていることを再認識させられました。この調査結果をパートナー校と交換し、日米間の気候や土壌による差異や共通点を探っていきます。



また、未来学習でもコンピュータを介してTV会議を行い、50年後や100年後の未来予測で互いの意見を交流し合って、相互理解を深めたいと考えています。

● ● ● 新刊図書情報 ● ● ●

「成功する少人数指導●困ったときにすぐ役に立つQ&A集」(明治図書) 発刊!

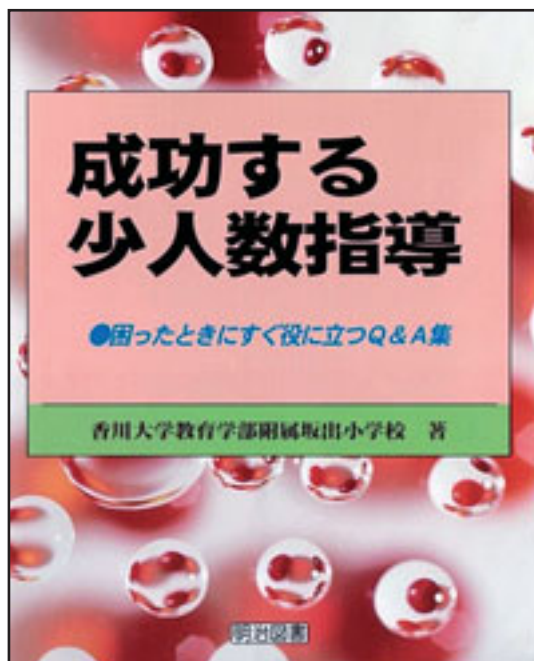
昨年11月の本校研究会にご参会された先生方には、本校の少人数指導についての考え方や実際の取り組みをまとめた小冊子「少人数指導ハンドブック」を贈呈いたしましたが、この度、明治図書より具体的な実践例を充実させたその改訂版「成功する少人数指導 ●困ったときにすぐ役に立つQ&A集」が刊行されました。



刊行日が本校研究会当日ということもあり、本書を手にとりて熱心に見入る先生方も多く、中には1人で3～4冊購入なさる先生もいらっしゃいました。

本書は、少人数指導における考え方はもちろん、Q&A方式による解説や具体的実践例なども豊富に掲載しており、学校現場でもすぐに活用していただけるのではないかと思います。ご購入希望の方には、1冊1,800円(税込)で販売いたしておりますので、本校までご連絡ください。

本書が多少なりとも皆様方の参考になれば、ありがたく思います。



●もくじ	
第I章	なぜ今、少人数指導なのか
1 子どもの実態 2 社会の要請と教育施策 3 少人数指導のねらい	
第II章	少人数指導の実施体制
1 ねらいと集団編成 2 実施教科・学年と指導体制 3 少人数指導と複数担任制	
第III章	少人数指導Q&A (単元展開編)
1 「習熟度重視型」の位置付け 2 「興味・関心型」、「相互作用重視型」の位置付け 3 集団編成上の留意点 4 少人数担当教員との打ち合わせ 【COLUMN】少人数指導とTTのちがひ	
第IV章	少人数指導Q&A (学習指導編)
1 学習空間の工夫 2 教材・教員の工夫 3 きのこ的な指導と評価 4 総合的な評価の在り方 【COLUMN】少人数指導における「学習ルール」の指導	
第V章	少人数指導の実例
1 国語科 2 算数科 3 理科	
第VI章	少人数指導の効果
1 時間的有効性の検証 2 学力保障の効果の検証 【COLUMN】保護者の声	
第VII章	少人数指導Q&A (教科編)
1 国語科 2 算数科 3 理科	

あ と が き

最近、「確かな学力」の向上に向けての学習指導に関する教育雑誌や研究授業を多く目にします。子ども一人一人の能力に応じた学力を身に付けさせることが教師の責任ですから、それ自体は大変望ましいことです。しかし、少し「知識・理解」「表現・技能」といった観点に偏っているのではないかという感想をもつのは、私たちだけでしょうか。

そんな中、私たちはそれらの能力を育成しつつ、「捉えること(測ること)」「伸ばすこと」の難しいと言われている「思考力」の育成に向けて研究を進めているところです。

編 集 委 員

真 鍋 佳 樹 長 船 准 児
三 宅 永 哲 森 山 敬 三
佐 柳 仁

平成15年 7月16日

香川大学教育学部附属坂出小学校

TEL 0877-46-2692 FAX 0877-46-5218

E-mail sakaide@ed.kagawa-u.ac.jp